



# 関町小通信

平成27年12月1日  
練馬区立関町小学校  
学校だより 11月号

## 動物園や水族館の中で暮らしたい？

校長 福岡 勤

練馬区の公立小学校では5・6年児童を対象に、千葉県の岩井と静岡県の下田にある海の宿泊施設と、長野県の軽井沢と武石にある山の宿泊施設を利用して、2泊ないし3泊の移動教室を実施しております。

今年度の本校の5年生は、11月9日（月）から2泊3日で、伊豆半島の南端に位置する宿泊施設「ベルデ下田」に泊まり、様々な体験をしてきました。この3日間、110名の子供が一つ屋根の下で寝食を共に生活し、伊豆の観光施設を巡って様々な陸上動物・海洋動物とのふれあい、潮風に吹かれながら海岸沿いの遊歩道を歩くハイキングなどの活動により、大いに自然を満喫してきました。

以前、「あなたが動物なら、動物園や水族館で暮らしたいですか。」と子供たちに聞いたことがあります。当然、「自由がない動物園などでは暮らしたくない。」との回答を期待していましたが、驚いたことに「園で暮らしたい。」と答えた子供が2割程度おりました。「え、なんで。」と再び理由を問うと、「だって、決まった時間に食べ物がもらえて、病気になれば獣医師が治療してくれ、何よりも敵に襲われることなく、安全だから…」と。ジャングル大帝や狼少年ケンをテレビで見て育った私は耳を疑いました。

この原稿を書いている最中「世界ジオパークを目指している伊豆の認定が保留となった。理由として、過去のイルカの追い込み漁の歴史がある。」とのニュースが報道されました。そのとき頭の中で、先ほどの子供の話、下田海中水族館で様々な芸を見せてくれた愛らしいイルカへの思い、その陰にある人間により捕獲され、芸を教え込まれ水族館で暮らすイルカに対する思いが、複雑に交錯してしまいました。



また、移動教室では、普段の学校生活以上に「三つの『あ』（あいさつ・あつまり・あとしまつ）」が大切です。「挨拶」・「集まり」は大変よくできましたが、トイレのサンダルの「後始末」が少し課題になりました（男子しか見ておりませんが）。

野球評論家の野村克也さんの著書の中に、「昔、旅館でのミーティングで大広間に集まる際、スリッパが散乱しているところに自分のスリッパを脱ぐときに、人は4パターンの行動を取る。」という記述があったことを記憶しています。1. 黙ってそおっと、端の方に揃えて脱ぐ。2. 「しょうがないな」と言いながら、散らかった横に脱ぐ。3. 散乱しているスリッパなど構わず、その上に乱雑に脱ぐ。4. 黙って、皆の脱ぎ捨てたスリッパを整然と揃えた後、きちんと自分のものを脱ぐ。というような内容でした。

いかがでしょう、皆様はどのタイプでしょうか。ちなみに1は外野手、2は内野手、3は投手、そして4は捕手が多いと野村氏は分析しております。ちなみに、今回の移動教室では、4の捕手タイプのお子さんもあり、見かけたときは「えらい」と褒めてあげたことを補足いたします。